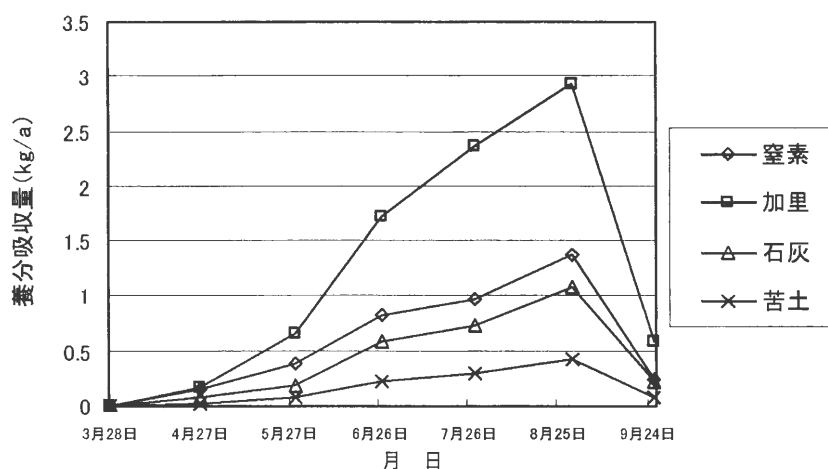


事項	カーネーション切り花の養分吸収特性と夏切り栽培における窒素の適正施肥量、施肥法																				
ねらい	カーネーションの短期作型での養分吸収特性と適正施肥量はよく分っていなかった。そこで、カーネーション切り花の養分吸収特性と夏切り栽培における適正施肥量、施肥法が明らかになったので参考にする。																				
指導	<p>1 夏切り栽培における適正施肥量</p> <p>(1) カーネーション夏切り栽培における窒素吸収量は、根を除く収穫物と切り下株を合計し1.5～1.8kg程度である。</p> <p>(2) 各養分吸収量は窒素に対し、加里が2.3倍、石灰が0.9倍、苦土が0.3倍程度である。</p> <p>(3) 施肥量は窒素の流亡もあるため、施肥窒素総量で2.0～2.5kgが適し、良品生産が可能で、作後に窒素が土壤に多く残留し、品質は向上しない。</p> <p>(4) 施肥窒素総量が1.5kg以下では作後に窒素が土壤に残留せず、品質低下、収量減となる。</p> <p>(5) 施肥窒素総量が2.5kgを越えると作後に窒素が土壤に多く残留し、品質は向上しない。</p> <p>(6) 具体的施肥法</p>																				
参考	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施肥時期</th> <th colspan="4">追肥 (kg/a)</th> </tr> <tr> <th>3月下旬</th> <th>5月上旬</th> <th>6月上旬</th> <th>7月上旬</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">窒素施肥量</td> <td>1.0～1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> </tbody> </table>			施肥時期	追肥 (kg/a)				3月下旬	5月上旬	6月上旬	7月上旬	窒素施肥量	1.0～1.5	0.5	0.5	—	1.0	0.5	0.5	0.5
施肥時期	追肥 (kg/a)																				
	3月下旬	5月上旬	6月上旬	7月上旬																	
窒素施肥量	1.0～1.5	0.5	0.5	—																	
	1.0	0.5	0.5	0.5																	
内容	<p>2 栽植密度、仕立て本数が異なる場合の施肥の考え方</p> <p>(1) カーネーション切り花の窒素含有量は、年次、栽培法や施肥量、分枝位置にかかわらず1.7～1.9%前後で安定しているので仕立て本数から窒素吸収量を予測できる。</p> <p>(2) 30g以上の切り花は1本当たり0.08～0.09gの窒素を吸収し、仕立てた本数が12500本（試験での仕立て本数）より多い場合、増加した仕立て本数に応じて1本当たり0.1g程度を追肥として上乘せする必要がある。</p> <p>(3) 計算例 ワンハーフ5本仕立て、3,125株/a（畦間160cm、株間12cm、6条植） $3,125 \times 0.1 \div 1000 = \text{約}0.3$ (kg) の追肥が必要 2回ピンチ6本仕立て、2,857株/a（畦間140cm、株間10×20cm、8条植） $(2,857 \times 6 - 12,500) \times 0.1 = \text{約}0.46$ (kg) の追肥が必要</p> <p>3 留意事項</p> <p>(1) 定植時期：3月下旬～4月上旬</p> <p>(2) 栽植様式：畦間160cm、株間12cm、6条植、3,125株/a</p> <p>(3) 仕立て本数：1株4本仕立て、a当たり12500本</p> <p>(4) 採花期：7月下旬～8月下旬</p> <p>(5) 作付前硝酸態窒素量：約3～5mg/100g</p>																				
期待される効果	適正施肥量が明らかとなり、施肥改善の参考となる。																				
利用上の注意事項	施肥前土壤の可給態（硝酸態）窒素量が多い場合は、適宜基肥を減ずる。																				
担当	フラワーセンター21あおもり	対象地域	県下全域																		
発表文献等																					

【根拠となった主要な試験結果】



注) 左図の8月の吸収量のピークよりも切り花ではさらに0.1kg程度窒素を吸収し、9月の株下の残存量を合計すると窒素吸収量は区によって1.5~1.8kg程度になる。

図1 窒素1.0+0.5+0.5kg施肥時の養分吸収量 (平成12年 フラワーセあおもり)

表1 フランセスコ切り花品質と作後の硝酸態窒素含有量 (平成9、11年 フラワーセあおもり)

年	施肥法 (kg)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	節数	採花率 (%)	L+2L (%)	平均採花日	硝酸態窒素 (mg/100g)
平成9年	0.5	66.7	21.6	3.9	11.4	54.1	36.9	—	0.8
	0.5+0.5	69.1	22.2	3.9	11.6	72.2	45.8	—	0.9
	1.0	68.6	21.8	4.0	11.5	70.6	46.5	—	0.8
	1.0+0.5	71.3	22.6	4.0	11.6	81.1	60.3	—	0.8
	1.5	68.1	22.2	4.1	11.1	92.8	40.7	—	0.8
	1.5+0.5	68.8	22.2	4.2	11.2	88.6	44.8	—	0.9
平成11年	1.5+0.5+0.5	71.2	29.6	5.4	11.1	95.1	60.9	8/2	2.5
	2.0+0.5	72.0	29.5	5.3	11.3	86.1	70.7	8/3	8.4
	1.5+0.5+0.5+0.5	71.3	28.5	5.3	11.2	88.9	66.2	8/3	5.5
	1.5+0.5+0.5+0.5	72.9	29.1	5.3	11.3	81.9	75.8	8/3	10.6
	2.0+0.5+0.5+0.5	72.3	29.4	5.4	11.0	75.0	72.2	8/1	11.9

注) 硝酸態窒素は作後の値

表3 フランセスコの切り花1本当たり養分含有量 (平成12年 フラワーセあおもり)

区	K ₂ O (%)	CaO (%)	MgO (%)	T-N (%)
1.5+0.5+0.5kg区 平均	4.23	1.31	0.55	1.85
第1分枝	4.23	1.20	0.51	1.87
第2分枝	4.15	1.28	0.53	1.80
第3分枝	4.30	1.41	0.58	1.91
第4分枝	4.19	1.24	0.53	1.78

注) 分枝の番号は上位から